



十和田市立中央病院公開講座が開催されました。

臨床研修医 2 年 眞柄 達也



医療法人静仁会 静内病院
院長 井齋 偉矢 先生

演 題:『即効性が期待できる漢方薬』

サイエンス漢方処方セミナー in 十和田

講 師:医療法人静仁会 静仁会 静内病院 院長 井齋 偉矢 先生

「漢方薬についてどう思いますか？」なんて質問をしたら、どんな答えが返ってくるでしょうか。「う〜ん、お年寄りが慢性疾患に対して飲んでるイメージ」とか「不定愁訴に対して処方されているイメージ」などでしょうか。もっと厳しいと「それエビデンスあるの？本当に効くの？」なんて声も聞こえてきそうです。「漢方薬って効く人も多いみたいだし、処方できるように勉強しよう」と思い、基礎的な教科書を手にとってみると、まず「証」なんて見慣れない単語が出てきたりして。西洋医学をメインに学んできた医療者にとって、学問体系から異なる漢方医学を独学で学ぼうとするのはややハードルが高いくらいがあるようにも思います。

そこで当院では漢方薬に対する理解を深めるために毎年、北海道の静仁会 静内病院 院長の井齋偉矢先生をお迎えして、漢方処方に関する公開講座を開催しています。井齋先生はサイエンス漢方処方研究会の理事長を務められ、漢方薬を現代薬理学の視点から検証し、効率的・効果的に利用していこうと実践されるとともに全国各地での講演会や、サイエンス漢方処方に関する本を執筆されるなど非常に幅広く活動されています。今年も 10 月 3 日に『速効性が期待できる漢方』と題してご講演を頂きました。

今回のご講演の中では『病気は患者自身が治すものであり、漢方薬は患者の病態と呼応し、体内のシステムを正常化する応答を引き出す薬物である』という考え方をベースに、「病態」「応答」「処方のコツ」「留意すべき副作用」「病名」からなる階層構造をお示しいただきながら、具体的な処方例についてもご教示いただきました。

例えば芍薬甘草湯について、

- 病態:『骨格筋/平滑筋が収縮する』『収縮に伴う激痛がある』
- 応答:『非常に短時間で筋肉が緩む』『収縮に伴う痛みが消える』
- 処方のコツ:『筋肉系の炎症性症状の緩和に booster として葛根湯を追加処方する』
- 留意すべき副作用:
 - 『甘草による偽性アルドステロン症』
 - 『間質性肺炎』『うっ血性心不全』『心室細動』
 - 『心室頻拍』『ミオパチー』『肝機能障害』
 - 『黄疸』
- 病名:『こむら返り』『月経痛』『尿路結石』
- 『ぎっくり腰』『しゃっくり』『胃痙攣』



座 長
麻酔科 診療部長
深田 祐作 先生



質疑応答の様子

といったように、非常に明快に解説していただきました。その他にも葛根湯、五苓散、半夏瀉心湯、小柴胡湯などが取り上げられました。どれも大変わかりやすく、明日から試してみたいくなる内容で、講演終了後も積極的な質問が続き、盛会裏に終了しました。

井齋先生は今年の12月に新たに本を出版される予定で、その中で各漢方薬について階層構造を用いて解説される様です。「公開講座に行きたかったけど、予定が合わずに行けなかった」という皆様は一度お手にとってみてはいかがでしょうか。

病院ふれあいまつりが開催されました!!

臨床検査科 前山 宏太

去る平成29年10月15日(日)、第5回十和田市立中央病院ふれあいまつりが開催されました。当日は音楽あり、演劇ありの多彩なステージやさまざまな医療体験コーナー、健康相談に市民公開講座などなど工夫を凝らしたたくさんの企画でご来場の皆さまをおもてなしいたしました。



院長の「開会宣言」

★各イベントの様子★



コールアゼリアによる合唱



『クラウド』による演奏



院内保育所『さわらびキッズルーム』
『ミッキーマウスマーチ』ダンス発表

絵画展表彰式



松野管理者(左)と、築場看護局長(右)



がん患者と家族の会『くつろぎサロン』メンバーによる『琴』演奏(左)と、



『十和田ハーモニーズ』によるハーモニカ演奏(右)



当院職員による
大道芸パフォーマンス



三本木農業高等学校の取組み
『命の花プロジェクト』発表

私は糖尿病ケアチームブースでの血糖の簡易測定とステージ発表を担当いたしました。血糖測定のコーナーでは多くの皆さまに指先からの簡易血糖測定を体験していただき、大盛況となりました。血糖測定の説明や測定結果を熱心に聞いてくださる方が大勢いらっしゃり、皆さまの健康に対する意識の高さには舌を巻くばかりでした。また糖尿病にかかわる検査のパンフレットも多くの方にお渡しでき、ほんの少しですが情報提供できたのではないかと思います。

ステージ発表では、趣味であるジャグリング(大道芸)を友人とともにご披露させていただきました。3つのボールを使ったお手玉や、デビルスティック、バルーン、シガーボックスに加え、最後は不安定な足場の上での3本のクラブのお手玉を披露いたしました。パフォーマンス中は観客の皆さまに手拍子や拍手で大いに盛り上げていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

私は普段は臨床検査技師として、検体検査(例:血液や尿の分析)や手術室での検査を担当しており、あまり患者さんや市民の皆さまの目には届かないところで病院を支えています。病院では皆さまの目の届く範囲かどうかにかかわらず、たくさんのスタッフが地域の皆さまの生命を守る砦として日々尽力しております。今後も「ふれあい」まつりという名前のおり、このイベントが多くの市民の方々と私たち病院スタッフとの交流の架け橋として継続していければと思います。

市民公開講座 第1部：じゅんちゃん一座 講演

「渡る世間は詐欺ばかり」〜わに限って騙されるわけね



監修・解説：竹内淳子
メンタルヘルス科診療部長

市民公開講座 第2部 「婦人科がんの話」



座長：富浦副院長

弘前大学大学院医学研究科
産科婦人科学講座教授
横山 良仁 先生 講演

病院まつりを見学にいらした県内の医療従事者の方からお礼のお手紙をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

先日、「病院ふれあいまつり」とはどんなものかと思い玄関を入ると、いきなり参加者の活気・熱気で圧倒されました。

まず市民の参加の多い事に驚きです。市民に愛されている病院だなと感じました。ちょっとした検診ができること、それぞれのブースでいろんな体験ができ、その上おまけにいろいろなものがもらえるお得感が惹きつけのポイントなのだと感じました。多分プチ検診で何か問題があれば、その後の病院受診へつながるのではと思います。そして、普段受診に来た時には受付、診察、検査、会計など自分と関わる場所や人しかみることが無いけど、こういう様々な職員と触れ合うことで病院がどんなことをしているのか知ってもらえる良い機会になると実感しました。

私たちは放射線ツアーにも参加して放射線技師さんの説明も受けてきましたが、技師さんの使命感や病院愛がひしひしと伝わり、一緒に参加した市民の方が「こういう機会に普段見れないところがみれて、医師には聞きづらい質問もできて良かった」と話していました。それぞれのブースの担当者の方々は皆さん笑顔で、やさしく接してとても好印象を受けました。職員の皆様もみんな楽しそうにしている印象を受けました。

イベントまでにはたくさんの障害や準備などご苦労があったとは思いますが。特に看護局は職員も多いので勤務のやりくりやまず職員の士気を高めるのは、看護局長さんのリーダーシップなのだろうと感心しました。職員が同じ目的に向かっていく過程はとてもパワーが必要だし、それだからこそ達成感も強く感じられると思いました。イベント成功のために携わった皆様に敬意を表したいと思います。一般市民としてふれあい祭りを満喫しました。ありがとうございました。

市民健やか
ゼミナール

11月開催のご案内

『ネットで見る最新の放射線治療』

～ネット世界の健康情報はどうなっているの?～

放射線科 副技師長 小川 佐智男

●日 時：11月22日(水) 16:00~17:00

●場 所：1階外来待合室

※健康とわだポイントラリー対象!! (ポイント付与は1回のみ)

